

〔 農 試 技 術 部 ・ 環 境 部 〕
 県南分場・県北分場

1. 背景とねらい

本年の水稲生育は、6月の低温・日照不足により生育量不足で推移した。また、いもち病の早期発生と拡大、葉色が濃く推移し追肥判断が困難な生育状況で経過した。7月下旬の高温・多照により生育が回復したもの、穂孕期から出穂期に相当する8月上旬は低温・日照不足・大雨となり、出穂の停滞と開花の不揃いが見られ、8月下旬も日照不足で経過したため初期登熟は緩慢であった。

このような、全期間にわたる低日射条件下で作況指数は「96」のやや不良となったものの、1等米比率が県平均で「90.4%」と高品質米生産を可能とした。

そこで、本県産米の今後の安定的な高品質米生産を維持するために、本年の水稲作柄の要因について検討したので指導上の参考に供したい。

2. 技術内容

(ア) 平成7年水稲生育経過

別紙 平成7年度水稲作生育経過図 参照のこと

(イ) 現状と今後の対応策

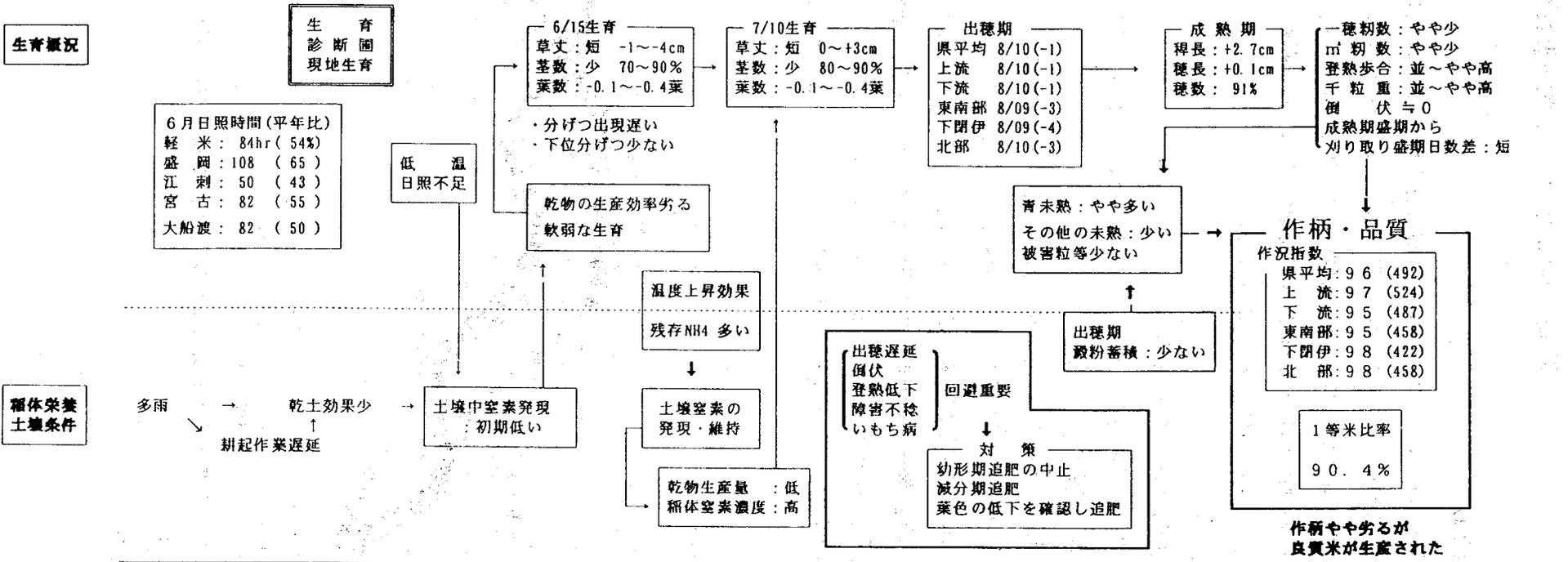
項 目	現 状	今 後 の 対 応 策
気 象 生育予測	<ul style="list-style-type: none"> ・DVRによるステージ予測 ・メッシュ気象情報システム活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域気象変動の検討 ・診断圃気象観測体制の整備と予測の高度化 ・日射量データの測定体制整備 ・長期予報の数値化と予測への活用
栄養診断技術	<ul style="list-style-type: none"> ・品種別の栄養診断基準 ・分析→診断と追肥対応時期に時間的ギャップ(事前診断) 	<ul style="list-style-type: none"> ・品種別のきめ細かな診断基準の作成 ・広域的迅速な診断手法の開発 ・地力(土壌窒素発現)に対応した肥培管理 ・土壌メッシュシステムの活用方策
いもち病対応	<ul style="list-style-type: none"> ・BLASTMによる感染好適予測 ・葉いもちの早期発生、広域発生 ・葉いもち注意報 ・穂いもち警報 ・例年発生の極少ない地域での発生多い。初期防除の遅れ。 	<p>営農形態や地域の品種抵抗性を考慮した防除体制の整備</p> <ol style="list-style-type: none"> ①いもち病育苗期感染防止の徹底 ②発生予察に基づく臨機防除指導の徹底 ③防除体制が弱体な地域に対する葉いもち予防防除と穂いもち防除体系の指導徹底
収 量 品質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・やや不良の作柄では過去最高の1等米比率 ・気象に対応した適正刈数の確保と適期の刈り取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・適期刈り取りを一層徹底 ・乾燥調整仕上げの精度向上 ・適期刈り取り幅の検討 ・登熟診断技術の確立

平成7年度 水 稲 生 育 経 過 図

項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
(ステージ)	育苗期	移植期	分けつ期	幼形期	減分期	出穂期	登熟前期 登熟中期 登熟後期 刈り取り期

気 象	日照不足に関する気象情報 5/11	6/6 6/12 6/19 6/23	6/30 7/7 7/14	8/4	8/18 8/21			
	低温と日照不足に関する気象情報	霧注意報 6/1 6/11 梅雨入り:6月中旬の前半 → 梅雨明け:7月下旬の前半	低温注意報 6/19 → 6/27					
	低温 やや多雨	高夜温 少照	低温・少照	高温・少照	一時極低温 高温・多照	低温・少照 大雨	気温並・少照	低温・日照並

苗 質：平年並 (やや徒長傾向) 活着：並～やや良 (発根量) 初期～分けつ盛期 生育不良 生育回復(見かけ上) 葉身長く草型劣る 出穂停滞 穂揃い劣る 傾穂遅い 初期登熟不良 登熟緩慢、籾・枝梗黄化遅い 青未熟粒低下遅い



病 害 虫	立ち枯れ病: 並	葉いもち本田発生確認: 6/14(-9日) → 全般発生開始期: 7/10~12頃 (並)	葉いもち発生面積 12,433ha (平年比151%)
	細菌病: やや多 (苗立ち枯れ中心)	葉いもち注意報 (第1号6/16) 第2号(7/12)	県北部・沿岸部・山間部で多い
			穂いもち注意報(8/8) 穂いもち発生面積 22,692ha(平年比219%)